

やってみよう！ 地図アクティビティ

地球儀をまわして地球を観察

富山大学人文学部 准教授 大西 宏治

1 地球儀との垣根を下げる

社会科の授業のとき、児童の手もとには教科書や地図帳、ノート、教員の配布したプリントなどがあり、それらは自分の責任で利用していくことができます。しかし、学校で地球儀を使うときは、自分のものではなく、こわさないようにとか、みんなで使えるように大切に使わなければとか、子どもなりにいろいろと気を使って利用することになります。その結果、地球儀に対して子どもたちが親近感をもって利用することが難しくなります。

また、地球儀を使う場面は、社会科でも地球儀の利用方法を取りあげるときに限定されがちです。地球が球体であること、実際の地球は世界地図とは少し異なることを伝えるには地球儀は必須の教材です¹⁾。とはいうものの、利用機会が少ないと地球儀に対する親近感が生まれません。そのうえ地球儀は社会科で利用する教材としては比較的高価ですから、登場回数は増やしたいものです。今回は世界地図と地球儀の違いを体感するような授業をいくつか提案しましたが²⁾、今回はその応用編です。地球儀を使う楽しい活動を考えてみましょう。

2 地球儀でみるとんりの国³⁾

地球儀を使ってとんりの国探しをやってはどうでしょうか。世界地図でも同じような活動はできますが、地球儀をまわしながらやってみてはどうでしょう。日本のとんりの国として中国や韓国などはすぐに出てくると思います。真南に行つてインドネシアとか、太平洋の向こう側、アメリカ合衆国やメキシコ、ペルーなども思いつくかもしれません。日本を中心とした世界とのつながりを考えるよい機会になるように思います。さらに、アメリカ合衆国のとんりの国は？などいろいろな

国のとんりの国を探すように発展させていくと、地球儀をぐるぐるまわして探すことにつながると思います。ヨーロッパにある国々やアフリカなどは、日本が直接のとんりの国になることはできません。とんりのとんりの…とたどっていくことになります。このようにして国どうしの位置関係を考える機会を提供することは児童の世界認識の発達をうながすでしょうし、なによりも地球儀に対する親近感を生むのではないのでしょうか。

加えて、「日本から南にいくと、暖かくなりますか、寒くなりますか？」などの質問をしながら、赤道付近は気温が高く、極に近づくにつれて気温が下がることなどを見いださせてはどうでしょうか。この活動自体は世界地図上でもできますが、地球儀上で行うと、地球が球体であることから、赤道と極で太陽からの光を受けとめる角度がかわることが理解できます。このことが気温の高低に関係していると気づかせることも可能です。

3 地球儀をかき写す⁴⁾

地球儀をかき写す活動もやってみてはどうでしょうか。世界地図であれば地球を平面に置きかえてあり、全面を見ることができるところが地球儀はどうでしょうか。地球上に昼と夜があることからわかるように、表側から見えるところと見えないところがでてきます。そこで、「日本を中心に地球儀をかき写したらどこまで見えるだろう」と問いかけてみてはいかがでしょうか。『楽しく学ぶ小学生の地図帳』のp.85 (旧p.85)を見ながら想像させてみるといいでしょう(図1)。地球儀を見るときは日本の真上に自分をもってするようにして見ないといけません(図2)。そうしないと、児童によって地球儀の見えるようすが違ってしまいます。ある児童からは「アメリカ合衆国はほとんど見えなかった」とか、「インドが

* 地図帳の参照ページの「旧」は、5, 6年生が使用している地図帳『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』を表しています。



図1 日本を中心に見る地球儀を想像する『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.85 (旧p.85)



図2 日本中心に見た地球儀

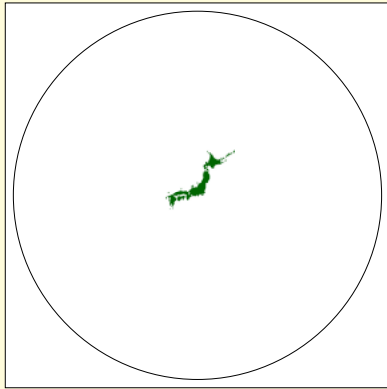


図3 日本を中心の円が描かれたプリント

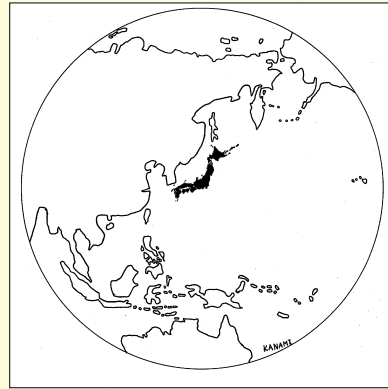


図4 大学生が描いた日本中心の地球儀を写した図

見えた」,「オーストラリアも少し見えた」などいろいろな回答が返ってくると思います。

次に、児童に大きく円を描いた中心に日本が描かれているプリントをくばって、その中に地球儀を見たときに見えるようすをかかせてみてはどうでしょうか(図3)。地球儀をかくというのは、球体の状態で世界を観察する重要な活動になります。この活動をもとにして地表のようすを感じ取り、世界地図との違いを考える機会になります(図4)。

この活動に関心をもった児童がいれば、いろいろなところから地球を観察させてはどうでしょうか。イギリスを中心に世界地図を見るとか、タイのバンコクを中心に世界地図を写してもよいと思います。そのときには円だけで中心に何も描かれていないプリントを渡す必要があります。これだけ地球儀をさわれば、各国が自国を中心に世界を見たときどのように見えるのか考える手がかりになると思います。

4 地球を写す重要性

世界地図を見て世界のようすを理解することは重要な活動ではありますが、地球儀でも世界のようすを確認する作業は重要です。地球は球体であること、視点をかえると見える世界が変わってくることなど、児童が理解すべき事からはたくさんあります。世界地図と地球儀で見る世界の違いを理解するのは地球儀をかき写す作業が一番です。地球儀に慣れ親む作業の後、地球儀をかき写す活動を行うといった形で段階を踏んで地球儀を活用すればよいと思います。

このような活動を経験した児童たちの中には地球儀をまわしながら世界旅行を楽しんだり、世界地図では形成できない世界像を獲得する児童も出るかも知れません。

- 1) 前回の2015年2学期号を参照。
- 2) 前掲1)
- 3) この活動に関しては吉田和義(2004):『地理学習を面白くする授業アイデア』明治図書を参考にしました。
- 4) 前掲3)